

社会科学習指導案

単元名「日本の諸地域～近畿地方～」〔学指要領：C（3）、ア（7）（イ）、イ（7）〕

令和〇年〇月〇日（〇） 第〇校時 〇〇〇〇教室

〇〇立〇〇中学校 2年〇組 指導者 〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全及び、関連する他の事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色や課題を理解することができる。	・地図や資料から必要な情報を読み取る力が付いている生徒が多いが、日本の諸地域における社会的事象に関わる重要語句の説明や地域的特色を、正しく理解できるようにする必要もある。
思考力、判断力、表現力等	・自然環境や歴史的景観の保全に関わる取組を、近畿地方の人口の分布や住民の生活及び産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現することができる。	・地域に見られる複数の社会的事象を関連付けて新たな事実や各地域の特色、また、各事象を比較して、日本の各地域の違いや、時代に伴う地域の変化を導き出すことができる生徒が半数程度いる。
学びに向かう力、人間性等	・近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点から、人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとする。	・前単元の「中国・四国地方」の学習では、各単位時間の学習で学んだ内容を自身の言葉で振り返ることができた生徒が多かったが、それらを新たな学びにつなげたり、社会へ生かそうとしたりする生徒は少ない。

2 評価規準

知識・技能	・地図や資料を活用し、近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全及び、関連する他の事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色や課題を理解している。
思考・判断・表現	・自然環境や歴史的景観の保全に関わる取組を、近畿地方の人口の分布や住民の生活及び産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点から、人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全7時間：本時第4時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	・近畿地方の産業や環境に関する資料を基に、単元の課題を把握する。（い） 単元の課題 近畿地方では、人口の増加や産業の発展と、環境や景観の保全とをどのように両立しているのか。			○
2	・地図・雨温図等の資料を基に、近畿地方の自然環境は、北部・南部・中央部で分けられることや、中央部の平野に人口が集中していることを調べ、まとめる。（あ）（い）（a）	○		
3	・京阪神大都市圏を取り上げ、町づくりと環境保全を両立した取組について諸資料から調べ、まとめる。（あ）（い）	○		
4	・阪神工業地帯を例に、近畿地方の工業の発展と環境保全を両立した取組について諸資料から調べ、まとめる。（あ）（い）	○		
5	・古都、京都奈良の取組を例に、近畿地方の観光業と環境保全の両立から、歴史的景観の社会的意義について考える。（あ）（い）		○	
6	・近畿地方の杉とズワイガニを取り上げ、林業・漁業と環境保全の両立と産業の様子の変化を考える。（あ）（い）		●	
7	・近畿地方の学習における、単元の課題についてまとめる。（い）	●		●

*活用する学習支援ソフト等：（あ）Google ジャムボード （い）Google スプレッドシート

*活用するコンテンツ等：（a）中学社会地理/日本の諸地域 近畿地方（Wikibooks）

II 本時の学習（４／７）

- ねらい 阪神工業地帯における工業の発展と環境保全とを両立した複数の取組の共通点や相違点を話し合う活動を通して、持続可能な開発を視点に阪神工業地帯が変容したことを理解できるようにする。

2 展 開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（5分） ＜めあて＞ 阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた環境問題に対して、どのように取り組んできたのだろうか。 S：どのようにして、こんなにも公害などによって悪くなった地域の環境を改善してきたのかな。		○阪神工業地帯は、他の工業地域と比較すると機械、鉄鋼繊維、食品等の工業製品を偏りなく生産していることや、過去、この地域では公害が深刻化していたことを捉えられるように、「主な工業地域の工業出荷額の内訳」「1960年代の工業地帯の公害の様子が分かる写真」の資料を用意し、どのような工業の特徴や、地域の様子がえられるかを問いかける。 【★提示・配布】
2 阪神工業地帯の工業出荷額の変化や、大阪府の工業用水の水源を示した資料から、解決に必要な情報を集め、読み取る。（15分） 【★検索・収集】 「阪神工業地帯は、昔から工業の発展と環境保全の両立を目指した取組をしていたのでしょうか。」 S：1980年の「移転」と2000年の「工業への太陽光パネル設置やリサイクル水の利用」は、2つとも環境に配慮する取組だな。 S：昔からの環境問題については、どうにか解決しようとする考え方や動きはあったのかな。		○近畿地方の工業の発展と環境保全の両立について、多面的・多角的に考察できるように、複数の資料から、どのような事実が読み取れるか、確認するよう促すとともに、昔と現在の取組の共通点を問いかける。 ○近畿地方の工業の発展と環境保全の両立についての生徒一人一人の考えを把握し、それを学級全体に伝えたり、一部の生徒のもっている考えを広めたりできるように、机間支援を行い、必要な助言をする。
3 学級全体で、整理した情報をもとに、近畿地方の工業と環境保全はどのように両立しているか考察をする。（20分） 【★保存・提出】 「現在、行われている環境保全の取組には、共通してどのような視点が取り入れられているでしょう。」 S：「単純に工場を移転して解決する」という考えと比較すると、「工場への太陽光パネル設置やリサイクル水の利用」等には、守り続けるという持続可能な開発の視点が取り入れられているな。 S：企業や地域の人々は、この先に続く将来のことも考えて取り組んでいるのかな。		○阪神工業地帯に関わる人々の取組が、持続可能な視点を踏まえた取組へと変化していったことに着目できるように、過去と現在では、同じ環境問題に対する取組でも、何がどのように違うのかを問いかける。 ○近畿地方の工業を具体的な社会的事象とし、産業の発展と環境保全についての知識の再構成を図ることができるように、一人一人が考えた意見や、ポイントと考えた社会的事象同士をつなげるなど構造化して板書する。 【★一覧表示】
4 本時のまとめをし、学級全体で共有するとともに、一人一人が学習の振り返りをする。（10分） 【★保存・提出】 ＜まとめ＞ 1960年代は、大気汚染や地盤沈下などに対し、工場の移転等に対応したが、現在は、太陽光パネルやリサイクル水の利用を進めるなど、持続可能な開発の視点を取り入れ、工業の発展に伴う環境問題を解決している。 ＜振り返り＞ S：近畿地方は、工場の移転から太陽光パネルの設置などへと、持続可能な開発の視点を取り入れた環境対策に取り組み、工場と住民の共生を目指して発展してきたことがわかった。阪神工業地帯は中小工場も重要な役割を果たしているが、「絶対に緩まないねじ」以外に、阪神工業地帯の工場にしかない独自の技術はあるかさらに調べてみたい。		◆評価項目（知○） ジャムボードの記述内容から、「持続可能な開発を視点にした阪神工業地帯の変容について理解しているか」を評価する。 ○学習の深まりを実感できるように、数名の振り返りを紹介するとともに、近畿地方の産業の発展と環境保全の両立について考察できたことや、学習全体の様子について称賛する。 【★一覧表示】